

- ・留学期間：4 年次 春学期・秋学期
- ・所属学科：総合社会学科

「語学堂」で基礎固め

私は春学期に週 2 回語学堂に通いました。語学堂では、韓国語の能力によってクラスが分かれており約 6 クラスほどありました。その中で、私は韓国語能力試験約 4 級程度(中級)のクラスに振り分けられました。クラスメイトは、中国人とベトナム人が多くその他にウズベキスタンや英語圏の学生を含む計 16 人でした。少人数だったため、分からないことがあるとすぐに質問が出来ましたし、会話練習などもしやすかったです。

そして、日本人が私 1 人だったため初めは友達が出来ず 1 人でいましたが毎朝 1 番に教室へ行き、クラスメイトが来るたびに挨拶をすることで段々仲良くなる事が出来ました。また、日本や日本文化に興味を持っているクラスメイトがいたので、思い切って話しかけるなど、様々な外国人と仲良くなれるチャンスはめったにないと思い、勇気を出して行動をしました。その結果、様々な外国人と交流することが出来、授業終わりには一緒にご飯に行ったり、週末に遊びに行くなど貴重な体験をすることが出来ました。

結果的に、春学期の約 4 か月間語学堂に通って良かったです。韓国に行つてすぐは表現や文法などの基礎が出来ていない状態だったので、学部での授業だけで韓国語を伸ばすことは難しかったのではないかと思います。費用もかかりますし、学部の授業と並行するため忙しいですが週 2 回の約 8 時間通うことでより基礎を固めることが出来たと思いました。

グループワークでは、自分ができるところをまず探す

私が留学した文化映像学部は、よくグループワークをする学部で留学生も多かったです。留学中に、グループワークがある授業を 3 つ受講したのですが、まず勉強不足で授業内容を理解できないという点でとても困りました。留学に行く前から、韓国語を勉強しておりハングルや単語などを読み書き出来、理解できる程度だったのですが、本来学んでいる学部と違う専門的な話や日常会話以外の韓国語を聞き取れることは難しかったです。また、資料や講義はすべて韓国語のため、理解するまでに時間がかかりました。そのため、事前に資料に目を通すなどの予習と授業終わりの復習は必須でした。そして、グループワークでも困りました。韓国の学生たちは、1 回生からグループワークを頻繁にしているため、分析や問題解決などをやり慣れている状態でした。しかし、私はあまりグループワークをしたことがなかったためやり方も分からず、言語も不足していたため、意見を求められてもなかなか伝えることが出来なく悔しい思いをしました。しかし、留

学に来て現地の学生と同じ授業を受けているのに何もしないのはもったいないと思い、今私が出来ることを必死にやろうと思いました。特に、毎回授業の終わりに出るグループ内の宿題や、資料調査や、企画の案などは時間をかけ、些細なことでも書き出し提出するようにしていました。そうしたことで、徐々に認めてもらえてコミュニケーションをとることが出来ました。この経験から、分からないことがあってもすぐに諦めるのではなく自分が出来ることを探し地道に取り組むことは大切だと気付きました。時間がかかっても着実に出来るようにしていくことはこれから起こるどのことにも共通して言えることだと思うので、大切にしていきたいです。

試行錯誤の寮生活

私は家族以外の人と暮らすことが初めてで長い間実家から離れるのも初めてでした。そのため、韓国で寮生活を送れるのかとても不安でした。最初は、4 人部屋で韓国人とのルームメイトを申請していましたが、希望者が現れずしばらくの間は一緒に留学をしていた日本人と暮らしていました。なかなか希望者が見つからなかったため、韓国人の友達に紹介してもらい、韓国人 1 人、日本人 2 人の 3 人での同室になりました。寮担当の方にも手伝っていただきましたが、私たちが探し、直談判しに行ったのが良かったと思いました。韓国人 1 人、日本人 2 人の同室でいい点は、日本人だけではなく韓国人もいることで日常会話が韓国語になることです。やはり、日本人だけで暮らすと日本語で話してしまいがちですが 1 人でも韓国人がいることで、常に韓国語を使おうという意識を持つことが出来ました。そして、授業内容やネットショッピングなどで分からないことがあると聞くことが出来ることです。留学当初は、手続きなどが多く分からないことが沢山ありましたが、そのたびにルームメイトに教えてもらいながら解決することが出来ました。しかし、外国人と暮らすことは良いことばかりではなく難しいこともありました。やはり、お互いに言語や育った環境が異なるため、十分に理解できない部分もありました。特に、大きな喧嘩はありませんでしたが、お互いに言えず我慢することが多々あったと思います。改めて、意思疎通の難しさと他人と生活する難しさを知ることが出来ました。

2 学期では、4 人部屋よりも施設が良い 2 人部屋に移り韓国人とのルームメイトを希望しました。しかし、2 学期から留学生が多かったことと 2 人部屋だったため私は最後まで 2 人部屋を 1 人で使用していました。1 人だったので、1 学期の頃よりも、寮内での韓国語を使う頻度は減りましたが、中間テストや期末テストなどの勉強したい時には、時間や騒音を気にせずに勉強が出来たのでその点では良かったです。寮内で、韓国語を使う機会が減ったので食堂や友達と遊ぶとき、日本語教室でのお手伝いの時には積極的に韓国語を使うようにしていました。また、授業がない日や週末には 1 人で市内やソウルまで行き、なるべく韓国語に触れるようにしていました。そのおかげで、1 学期のころよりもリスニングやスピーキング力が伸び、相手が話していることが分かりやすくなりました。

課外活動で友人を作る

学校が行っている EMC という少人数で日本語を行うプログラムと日本語教室、そしてバディープログラムという 1 対 1 で韓国人の学生とマッチングし交流するプログラムに 1 年間参加しました。EMC と日本語教室では、日本語や日本の文化に興味がある学生と交流するプログラムで主に会話練習の手伝いをしました。特に湖西大学のゲーム学科の学生は日本での就職に向けて、日本語を詳しく勉強するプログラムでした。初めから全員日本語を話せるのではなく、能力にばらつきがあったため、ひらがなやカタカナから始めました。しかし、回を重ねるごとに授業も難しくなり、ずっと日本で育ってきた私ですが、高校までの授業以外で日本語そのものを学んだことがなかったので細かく説明するのが難しかったです。そこで、多くの友達を作りました。EMC で出会った友達とは今も仲良くしており次の学期から日本留学をする友達もいます。そして、日本語教室は夜 10 時ごろまであり寮や学校近くに住んでいる学生が多かったので、週末には遊びに行ったりご飯やカフェに行きました。日本語と韓国語で会話していたため、お互いに勉強になりましたし言語を学んでいる人が近くにいたことがとても心強く刺激にもなりました。

バディー・プログラムは希望制で、韓国人学生との交流を通して留学生活での不安や困ったときに頼れることなどを目的にしたプログラムで、バディーは必ずしも日本語を話せる学生ではありませんでした。1 学期は、全く日本語が話せない学生でしたが、日本に興味を持っていたためお互いの国についての紹介や文化の違いなどについて話し合い、交流することが出来ました。2 学期は、以前湖西大学に留学していた本学の卒業生と友達だったため日本語を話せる学生でした。そのため、難しい表現や分からないことがあれば日本語で説明してくれて、より理解することが出来ました。このように、本校でも留学生と言語や外国に興味がある学生が主体になり活動出来るプログラムがあれば、留学生も安心できますし、繋がりを深く広く出来るのではと思いました。

留学を通して身についたもの

約 1 年間の韓国留学を通して、身に付けた能力はまず粘り強さだと思います。留学中は楽しいことばかりではなく大変なこと難しかったことが沢山ありました。そのたび、すぐに諦めるのではなく粘り強く何事も一度挑戦してみることが大切だと思いました。語学堂や学部の授業の中でも、問題に直面しても諦めずに、自分出来ることを少しずつ行動に移すことで成長できることを体験したからです。「할 수 있다. 하면

된다.」(できる。やればできる。) これは、湖西大学校のスローガンです。本当にその通りで、最初は難しいことも実際にやってみると出来たり、少し工夫すればハードルが下がったということがありました。最初のイメージだけで諦めるのではなく失敗を恐れずやってみること、これは今後どんな問題に直面しても意識していきたいと思いました。

そして、言語です。留学をする前は、韓国語能力試験(TOPIK)初級の 2 級程度の言語力でした。留学をする中で、ルームメイトや友達、授業など常に韓国語が溢れている生活だったので語学力が伸びて、最終的には高級の 5 級を取ることが出来ました。特に友達との会話であったり、バディー・プログラムなどの活動、また日本語教室で仲良くなった友達に作文を添削してもらいました。このように、常に韓国語の先生がいて毎回丁寧に教えてくれたおかげで取れた 5 級だったと思います。次は、最高級の 6 級を取得できるように引き続き勉強を頑張りたいと思っています。

行動しないと分からなかったこと

実際に韓国留学をしてみて、ニュースや新聞・ネット等で報道されていた日韓関係とは違い、私が日本人だから、日本が嫌いだからといって嫌な思いをすることはありませんでした。反対に、思っていた以上に日本が好きで、日本語を勉強している人に沢山出会えました。これは、実際に韓国に来て生活をしなければ分からなかったことだと思います。1 年という長そうでも短い期間の中で、何をするのか、どこへ行くのか、全ては自分で決めることが出来て、行動しなければなりません。沢山勉強もしたし、沢山遊んで友達も作りました。そして、旅行にも行ったり、1 人でカフェや映画館に行くことなど日本でもしたことがない経験もしました。

毎日が新鮮で新しい発見があったので、1 度も日本に帰りたいと思ったことはなく、特別な理由がない限り帰国しませんでした。そのくらい、充実した意味のある留學生活だったと思います。コロナウイルスの影響によって、4 回生からの留學になり不安なことが沢山あり、諦めてしまいそうな時もありました。しかし、留學しなければ分からなかったこと、体験できなかったことが沢山あり、今では留學を諦めないで良かったと思います。この 1 年間ただ時間が過ぎるのを待っているのではなく何か形に思い出に残したいと思い、自分らしく駆け抜けられた濃い 1 年になりました。1 年間、支えて下さった先生方や一緒に思い出を作ってくれた友達に感謝しています。ありがとうございました。